

李 春利 愛知大学教授

ポイント

- 技術覇権で米が「中国製造2025」に的
- 政府主導と自然発生的な技術革新が併存
- 先進国企業との市場と技術の交換に限界



李 春利 62年生まれ。東京大博士(経済学)。専門は中国経済論、国際産業論

なる品目には中国製造2025の下で製造される製品が含まれると表明し、当該政策については「中国の将来的な経済成長の機動力となるが、米国の含むその他の多くの国の経済成長を阻害する」と述べ、中国のインバウンドに圧力をかけている。

中国のインバウンドの実力は果たしてどのようなものだろうか。ここでは中国製造

「アリバイ」と、騰訊控股(テ

「アリバイ」と、騰訊控股(テ

「アリバイ」と、騰訊控股(テ

「アリバイ」と、騰訊控股(テ

米との摩擦、路線転換促す

2025にリストアップされた産業の中から、新世代情報技術と密接に関係するフィンテックとNEVの2分野に絞って検討してみよう。

中国では欧米や日本に比べてクレジットカードの普及が遅れ、クレジット社会を前提にした決済方法ではうまくい

中国ではクレジットカード

中国ではクレジットカード

中国ではクレジットカード

中国製造2025は中国政府が2015年に発表した25年までの10年間を見据えた中長期の産業政策であり、いわゆる「製造大国」から「製造強国」への産業高度化を表現するマスタープランである。

具体的には、ナショナル・イノベーション(技術革新)能力の向上や、情報化と産業化の融合、重点分野におけるブレークスルーの促進など9つの重点戦略を定めている。

その中で、新世代情報技術やハイエンド工作機械・ロボット、航空・宇宙、新エネルギー

自動車(NEV)、新素材など10大重点育成産業がリストアップされている(15年8月21日付の本欄参照)。

今回の米中摩擦でトランプ大統領は、制裁関税の対象と

中国企業の革新力

コア技術の自主習得志向



中国のフィンテックは、いわば「後発の利益」でクレジットカードという発展段階をスキップし、独自の進化を遂げている。欧米の技術やビジネスモデルを後追いつたもの

中国のフィンテックは、いわば「後発の利益」でクレジットカードという発展段階をスキップし、独自の進化を遂げている。欧米の技術やビジネスモデルを後追いつたもの

中国のフィンテックは、いわば「後発の利益」でクレジットカードという発展段階をスキップし、独自の進化を遂げている。欧米の技術やビジネスモデルを後追いつたもの

中国のフィンテックは、いわば「後発の利益」でクレジットカードという発展段階をスキップし、独自の進化を遂げている。欧米の技術やビジネスモデルを後追いつたもの